様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　７ 年　 ６ 月 ３０ 日現在

機関番号：２８００３
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2021～2024
課題番号：２１Ｋ１１６５１

研究課題名（和文）人生100年を健康に生きる離島中学生のヘルスリテラシー教育プログラムの開発

研究課題名（英文）Development of a health literacy education program for remote island junior high school students to live healthily for 100 years of life

研究代表者

島袋　尚美（Shimabukuro, Naomi）

名桜大学・その他部局等・研究員

研究者番号：８０７３８２５３

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,700,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、沖縄県北部離島の中学生を対象に、保健分野における批判的思考とヘルスリテラシーを育成するための効果的な教育プログラムを開発することであり、学習効果の経時的変化を分析し、その有効性を検証した。北部3離島の中学生195名を対象に、授業のみを行う群と授業に演劇ワークショップを取り入れた群の2種類のプログラムを実施した。両群に対し、プログラムの実施前、直後、1か月後に批判的思考とヘルスリテラシーを評価するWebアンケートを実施した。すべてのアンケートに回答した113名（有効回答率57.9%）の分析結果から演劇あり群では批判的思考とヘルスリテラシーの得点が向上し、有意な主効果が認められた。

研究成果の学術的意義や社会的意義
沖縄県北部離島の中学生を対象にしたヘルスリテラシー教育プログラムの実施を通じて、生徒が健康情報を正しく理解し、情報を分析し、判断する力の向上効果が認められた。生徒が情報を批判的に思考するスキルを身につけることで健康的な行動を取ることでき、成人期の健康の基礎となる。さらにそれが波及して地域全体の健康状態が向上する可能性があり、地域住民の健康意識を高める地域社会への貢献が期待される。演劇を用いた教育手法の効果が示されたことで、今後の教育における新しいアプローチとして他地域でも応用可能な教育プログラムのモデルとなり、他地域や学校でも導入可能であり、全国的なヘルスリテラシー教育モデルとして活用できる。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study was to develop an effective educational program for developing critical thinking and health literacy in the field of health for junior high school students in the remote islands in the northern part of A Prefecture by analyzing changes in learning effects over time. Two types of programs were implemented for junior high school students (195 students) from three remote islands in the northern part of Japan: a classroom-only group and a group that included a drama workshop in the classroom. Web-based questionnaires on critical thinking and health literacy scales were administered to both groups before, immediately after, and one month after implementation. Results of the analysis of 113 middle school students (57.9% valid response rate) who responded to all of the questionnaires showed that the critical thinking and health literacy scores of the group with theater improved, indicating a significant main effect.

研究分野：保健分野

キーワード：離島中学生　批判的思考　ヘルスリテラシー　演劇　健康教育　効果

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９，Ｆ－１９－１（共通）

１．研究開始当初の背景

沖縄県離島では，アルコール性肝疾患による早世が続き，医療資源が限られる地域特性から予防的対策が求められている．住民同士の助け合いが強い地域文化の中で，飲酒機会の増加が身体的肥満や肝疾患，飲酒に絡むトラブルを引き起こしている．このような背景から，離島の飲酒問題解決には，飲酒を始める前の若い世代へのアプローチが必要とされている．

特に離島中学生は，高校進学時に親元を離れるケースが多く，思春期という精神的に未熟な時期に健康リテラシー（健康情報を収集・評価・活用する力）を育むことが重要である．WHO は，ヘルスリテラシーを「健康を保持・増進するために必要な情報を得て活用する能力」と定義しており，青年期にその能力を高めることは，次世代への行動パターンの基盤となるとされている．また，文部科学省が推進する「21 世紀型能力」では，膨大な情報を批判的に思考・判断し活用する力が重要視されている．特に離島においては，地理的・物理的な課題が背景にあるため，主体的に問題解決を行う機会が多く，ヘルスリテラシーの向上が必要不可欠である．

２．研究の目的

本研究の目的は，離島中学生を対象に，授業と演劇ワークショップを活用したヘルスリテラシー教育プログラムを実施し，批判的思考力と健康リテラシー向上の経時的変化を明らかにすることである．また，この結果を基に，離島中学生に適した教育プログラムの開発に向けた示唆を得ることである．

３．研究の方法

1）対象者

沖縄県北部 3 離島の中学生 195 名を対象に調査を実施し，全 3 回のアンケートに回答した 113 名（男子 64 名，女子 49 名，有効回答率 57．9%）を分析対象とした．研究期間は令和 4 年 10 月から令和 6 年 1 月までであった．

2） 教育プログラムの流れと概要

本研究の教育プログラムは 2 段階で構成された．教育プログラム流れを以下に示す．

①教育プログラム Step1（50 分）では，ICT 等を活用した授業を実施する．タブレット等を活用して健康情報にアクセスし知識を入手する方法，入手した情報を批判的に考え取捨選択する方法，情報を活用する方法を「だいじかなリスト」（坂本，2020）を元に学ぶ．酒やたばこが心身に与える影響について体内（肝臓・脳）や疾患の基礎知識を見える化した教材を用いて健康情報を提供する．

②教育プログラム Step2（100 分）の演劇ワークショップでは，生活上の出来事に情報を活用する能力と判断力・表現力を身につけるため，生徒らが協同で創作した演劇（即興劇）を通して，酒やたばこの害などに対してどのように考えて行動するか，飲酒や喫煙，ドラッグ等に誘われた時の断り方の疑似体験をする．互いの演劇発表を観賞して振り返りを行うことで批判的に思考し，健康行動の在り方を考える．

演劇の内容：劇の内容は，Step1 の授業で学習した情報バイヤスとフェイクニュースの知識を関連させ，「飲酒・喫煙・薬物・健康について，SNS 上で流れている健康に関するニュース（実はフェイク）」をテーマに，見る人たち（情報を得る人）を意識した即興劇を創作する．

3）調査内容

基本属性について，学校名，学年，性別を尋ねた．加えて，保健分野の健康情報に関する批判的思考尺度（7 項目），健康リテラシー評価尺度（23 項目），判断力テスト（8 項目），自己効力感尺度（18 項目）を尋ねた．批判的思考尺度は，批判的思考がリテラシーの基礎概念であり，中学生期に習得すべき能力とされるため採用された（八重樫， 2007；山本ら， 2014）．健康リテラシー評価尺度は，森ら（2015）の調査を参考に「情報収集力」「保健知識」「健康への関心度」など 6 分野で構成され，知識と情報活用を確認するために用いられた．批判的思考尺度は 4 段階評価（1～4 点，合計 7～28 点），健康リテラシー評価尺度は 5 段階評価（1～5 点，合計 23～115 点）で算出した．これらの信頼性と妥当性は先行研究に基づき確認された．

4）評価尺度

1． 批判的思考尺度（7 項目）にて，健康情報を批判的に考える力を評価した．

2．健康リテラシー尺度（23 項目）は，情報収集力，保健知識，健康への関心度，インターネット活用力，情報活用力，批判的リテラシーの 6 分野で構成される．その尺度を用いて評価した．

5）倫理的配慮

本研究は，名桜大学倫理審査委員会の承認（2022-020-1-1）を得て実施された．保護者および学校関係者に研究目的を説明し，同意を得た上で調査を実施した．また，調査参加は自由意思とし，プライバシー保護に十分配慮した．

6）分析方法

統計解析には「IBM SPSS Statistics ver．23」を用いた．一要因の反復測定分散分析を実施し，測定時期（実施前，実施直後，1 か月後）ごとの得点変化を検討した．また，演劇あり群（51 名）と演劇なし群（62 名）に分け，群間比較を行った．

４．研究成果

中学生 1～3 年生の 195 名中，3 回すべてのアンケートに回答した 113 名を分析対象とした（有効回答率 57.9%）．男子 64 名（56.6%），女子 49 名（43.4%）であった．教育プログラムの実施において，分析対象者の 113 名のうち，授業と演劇ワークショップを実施した群（51 名）（以下，演劇あり群）と授業のみでプログラムが終了した群（62 名）（以下，演劇なし群）に分け，両群のプログラム実施前の批判的思考尺度，健康リテラシー評価尺度得点の平均値を比較するために，一元配置分散分析を行った．その結果を表 1 に示す．プログラム実施前の健康情報の批判的思考尺度得点（F=0.281，P=0.597)と健康リテラシー尺度得点（F=0.766，P=0.383）に有意差は認められず，群ごとの違いは見られなかった．

表 1　実施前の批判的思考尺度得点と健康リテラシー尺度得点の比較

		n	平均値	標準偏差	F値	有意確率
健康情報の批判的思考尺度得点	演劇あり群	51	16.94	5.515	0.281	0.597
	演劇なし群	62	17.55	6.477		
情報リテラシー尺度得点	演劇あり群	51	69.31	19.56	0.766	0.383
	演劇なし群	62	72.87	22.97		

注 1）一元配置分散分析を行った

演劇あり群および演劇なし群の健康情報の批判的思考尺度得点の分散分析の結果（表 2），演劇あり群に測定時期に有意な主効果が認められた(F(2,100)=9.09, P<0.001)ため, Bonferroni の方法による各群の多重比較を行った（表 2）．

表 2　健康情報の批判的思考尺度（演劇あり・演劇なし群）の分散分析結果

		分散分析					多重比較検定
		df	F		偏η²	P	
演劇あり	測定時期	2	9.09	*	0.154	＜.001	実施前＜実施直後 ** 実施前＜実施1か月後 **
	被験者	50	3.99	*			
	誤差	100	(11.7)				
演劇なし	測定時期	2	2.19	-	.035	.116	
	被験者	61	5.64	*			
	誤差	122	(16.72)				

注 1）　批判的思考尺度得点を従属変数，時期を独立変数とする一要因の反復測定分散分析を行った
注 2）　多重比較検定は Bonferroni の方法を用いた
注 3）*:P<.01，**P<.001

その結果，実施前と介入直後(P<0.001），実施前と実施 1 か月後（P<0.01）で得点が有意に増加した．演劇なし群は，実施前と実施直後および実施前と実施 1 か月後で得点の増加が見られたが，測定時期の主効果に有意な差は認められなかった（F(2,122)=2.19，P=0.116．
演劇あり群および演劇なし群の健康リテラシー尺度得点について，分散分析の結果，演劇あり群に測定時期に有意な主効果が認められた（F(2,100)=7.939, P<0.001）．そのため，Bonferroni の方法による各群の多重比較を行った．その結果，実施前と加入直後(P<0.001），実施前と実施 1 か月後（P<0.01）で得点が有意に増加した．演劇なし群は，実施前と実施直後および実施前と実施 1 か月後で得点の増加が見られたものの，測定時期の主効果に有意な差は認められなかった（F(2,122)=1.94，P=0.116）．

演劇の教育効果

演劇ワークショップは,生徒が情報の信頼性を批判的に考え，適切な健康行動を選択する力を育む効果が確認された．演劇を通じて情報を「自分ごと化」し，内省的観察や多角的視点を養うことが可能となった．同時に情報の信頼性を判断する力や適切な健康行動の選択力が育まれた．

課題と限界

サンプル数が少ないことにより,偏りの可能性や,環境条件の違いが学習効果に影響を与えた可能性がある．今後の研究の継続やプログラムの事業化を目指すためには，資金を抑えるための事業内容の工夫と，継続的な予算確保のための教育分野と保健分野の連携協力が重要である．

5．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計0件

〔学会発表〕　計1件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

1．発表者名 島袋尚美　田場真由美
2．発表標題 離島中学生のヘルスリテラシー教育プログラムの開発 情報リテラシーと保健分野の批判的思考力と自己効力感の基礎的調査より
3．学会等名 第11回日本公衆衛生学会
4．発表年 2023年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

―

6．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	任　和子 (nin kazuko) (40243084)	京都大学・医学研究科・教授 (14301)	
研究分担者	比嘉　憲枝 (higa norie) (40326509)	名桜大学・健康科学部・上級准教授 (28003)	
研究分担者	本村　純 (motomura jyun) (50632999)	名桜大学・健康科学部・上級准教授 (28003)	
研究分担者	神田　奈津子 (kamida natuko) (50824512)	名桜大学・健康科学部・准教授 (28003)	

6．研究組織（つづき）

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	田場　真由美 (taba mayumi) (90326512)	名桜大学・健康科学部・教授 (28003)	
研究分担者	當山　ちひろ (touyama tihiro) (40966678)	名桜大学・健康科学部・助教 (28003)	

7．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

8．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関